

石巻専修大学

https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の情報は大学HPで。
QRコード

新渡戸文化高校 協力 スタディーツアー 体験学習を支援



魚のさばき方を表演する奥山さん(右)

11月10日から4日間にわたり、石巻市で行われた新渡戸文化高校(東京都中野区)のスタディーツアーに、本学の学生や

教員が協力した。スタディーツアーは、地域の課題解決に取り組む大人と現地で交流する同高独自の体験型プログラム。今回はフードデザインコースに所属する1、2年生27人が石巻市を訪れ、海と山をテーマにしたプログラムを体験した。

11日は、「自分たちで捕獲した魚を自分たちで調理をして食べる」と題したプログラムを実施。理工学部の鈴木英勝教授のほか、生物科学科2年次の松本太一さん(埼玉県宮代高)、奥山倅成さん(山形県天童高)、佐藤歩夢さん(福島県福島商業高)、伊藤龍斗さん(福島県会津高)が調理を手伝った。4人は、普段から未利用魚のおいしさや命の大切さを伝える

活動をしていることもあり、慣れた手つきで魚をさばっていた。食後に町の話で盛り上がるなど、短時間ながらも深い交流を持つことができた。

ジビエのバーベキューを楽しむ高校生と庄子ゼミ生



12日は、牡鹿半島で狩猟したシカやカモのジビエを卸販売している企業の協力で、山歩きや鹿肉の解体作業などが行われた。バーベキューには、観光やまちづくりについて学ぶ庄子真岐ゼミの学

生たちも参加。樋口久雅さん(人間4・青森県東奥義塾高)がスライドを使ってゼミ活動について話した。習日に予定されている市街地散策プログラムに向けて、おすすめの店を紹介するなどして交流を深めた。

樋口さんは「鹿肉を洗う作業は、石巻に住んでいてなかなかできない体験なので新鮮な印象があった。交流が深まった。来年1000について説明。年間1000万が廃棄されていることを知った生徒たちからは、「どうにかして課題を解決したい」との意見があがった。

人間文化学科「フレッシュマンセミナー」

震災遺構・旧大川小を見学

人間学部人間文化学科1年次の必修科目「フレッシュマンセミナー」を受講する学生26人が11月1日、震災遺構の旧大川小学校を見学した。大川地区で語り部活動を行う「大川伝承の会」共同代表の鈴木典行さんから、震災時の様子や語り部を始めた経緯などについて話を聞いた。被害の大きさや訓練の重要性を説く鈴木さんの言葉に、学生たちは熱心に聴き入っていた。その後、小学校からの避難経路を実際に歩き、学校の裏山にも登って当時の状況に

思いを寄せた。参加した樋口璃珠さん(第一学院高)は、「震災を体験した方から直接話を聞くことができ、貴重な経験になった。復興に向けて多くの方が震災と向き合ってきたことなど、たくさん学びがあった」と感想を述べた。佐々木唯唯さん(岩手県一関第二高)は、「震災の脅威と備えの大切さを改めて実感した。語り継ぐことの重要性を学んだので、私にもできることを見つけ、積極的に取り組んでいきたい」と語った。

大学生のサポートを受けながら難問に挑戦する小学生



石巻専修大学保育士・教員養成センターは11月9日、子どもたちに算数の楽しさを体感してもらう「算数トライアスロン」を本学学生ホールで開催した。

算数トライアスロンは、公益財団法人日本数学会定協会の学習支援プログラム。今回のイベントは、地域の学力向上・学習支援に取り組む本学が石巻市教育委員会と共催で、県内で初めて実施した。教員を志す生物科学科や人間教育学科の学生も企画・運営に携わった。

当日は、石巻圏域の小学4、5年生約25人が参加。パズル、迷路、一筆書きなど、学校の算数の授業とは異なる難問に挑戦した。通常問題4問に加え、最終問題、ボーナス問題まで到達した参加者もあり、会場には驚きの声があがった。学生たちは、10月に開催した大会で出た課題や反省を踏まえ、子どもたちが自らで問題を解けるようにサポートした。子どもたちからは「難しかったが、丁寧に教えてもらったので楽しかった」、保護者からは「身近な大学で、このようなイベントがあるとうれしい」などの感想が寄せられた。

3次元CAD利用技術者試験2級

11月14日に本学で行われた3次元CAD利用技術者試験2級に、理工学部機械工学科と情報電子工学科の2、3年生12人が合格した。

一般社団法人コンピュータ教育振興協会が主催するCAD利用技術者試験は、認知度の高いCAD資格試験の一つ。合格者は、機械系・製造系の設計やオペレーター業務、関連製品の管理・営業など、幅広い分野での活躍が期待される。2級は60問の筆記試験。3次元CADに関する「概念・機能と実用的モデリング手法」「管理と周辺知識」「活用」の4分野で構成され、各分野5割以上、総合7割以上の正解で合格となる。本学では今夏、2級合格を目指す試験対策講座を実施。理工学部の高橋智准教授が講師を務め、

小学生対象「算数トライアスロン」県内で初開催 教員志望の学生がサポート

もたちが自力で問題を解けるようにサポートした。子どもたちからは「難しかったが、丁寧に教えてもらったので楽しかった」、保護者からは「身近な大学で、このようなイベントがあるとうれしい」などの感想が寄せられた。

機械工学科と情報電子工学科の学生計24人が受講した。今回の合格者は全員本講座の受講生だった。満点で合格した機械工学科3年次の高泉匠さん(宮城県登米高)は「対策講座から計画的に学習した成果。学んだ知識を自分の強みとして、今後に生かしたい」と話した。

緊急フードパントリー実施

300人に食糧配布
昨今の物価上昇に伴い生活に困っている学生を支援しようと、「緊急フードパントリー」価格高騰に負けるな！食糧支援」を11月13日に実施した。今回は、生活協同組合連合会コープ東北サテネット事業連合会からフードバンクから提供を受けた袋麺を、1人につき1箱(3食パック9袋入り)ずつ配布。開始前から長蛇の列ができるほどの大盛況で、用意した約300人分はすぐになくなった。

子ども向けに食育活動を実践——人間教育学科・小玉研究室



人間学部人間教育学科の小玉幸助研究室が、11月10日にマルホンまきあーとテラスで開かれた「第11回石巻市民食育健康フェスティバル」に参加し、活動報告を行った。小玉研究室は、「食育プロジェクト」と題して、石巻圏域の子どもたちを対象にさまざまな食育活動を実践している。前期は、石巻産食材を使った調理実習とレシピづくりに挑戦。栄養やコストを意識しながら、子どももおいしく食べられる料理を完成させた。後期は学外にも積極的に飛び出し、9月にはイシノマキファームで農作業を体

験。五感を通じて、農業や作物について学んだ。10月には石巻市立北上こども園で、園児と一緒に地産地消のお好み焼きづくりを楽しんだ。石巻市民食育健康フェスティバルでは、こうした取り組みや考察したオリジナルレシピなどをパネルで紹介。足を止めた来場者に、案内役の学生たちが丁寧に説明した。

石巻専修大学共創研究センターシンポジウム

いしのまきの未来像を考える Vol.2
～縮小する地方都市における課題と希望とは～

日時：2025年1月10日(金) 18時30分～20時(予定)
会場：マルホンまきあーとテラス 小ホール
※定員300人。参加無料(申込不要)
詳細はコチラ

ishinomaki.sympto@gmail.com

2025年度入学試験
1月3日(金)
出願受付開始

- ◆一般選抜(A日程)
- ◆大学入学共通テスト 利用選抜(A日程)
- ◆特待生選抜(一般選抜3科日型)

★出願締め切り
1月17日(金) 消印有効

詳細はホームページ等で必ずご確認ください。
入試情報はこちらから▶

食育プロジェクト代表の加賀悠一郎さん(人間4・クラーク記念国際高)は、「来場者への説明を通じて、地産地消や食育への理解をより深めることができました。将来的には、石巻産食材を全国に発信できる機会もつくりたい」と話した。